

2020年度 決算

投資家様向け説明資料



2021年4月27日
オムロン株式会社

発表のポイント

■ 2020年度 実績

- ・上方修正した3Q見通しから上振れて着地。4Qに入って事業回復のスピードが加速。
- ・厳しい事業環境の中で対前年+14%増益。売上総利益率は45.5%まで向上。
- ・主力の制御機器事業は中華圏で過去最高の売上を達成。ソリューション提案型営業で成果。

■ 長期ビジョンVG2020振り返りと、次期長期ビジョンの方向性

- ・VG2020の10年間は「成長力」「収益力」「変化対応力」の強化による財務価値の創出に加え、「ESG取組」による非財務価値の創出により、企業価値を大きく向上。
- ・自走的な「成長力」の確立は道半ば。次期長期ビジョンでは、この課題を克服する。
- ・「成長事業機会」に対して、「モノ+サービス」でソーシャルニーズの創造を拡大していく。

■ 2021年度計画

- ・2021年度は、次期長期ビジョンが始まる2022年度に向けたスタートダッシュの年。全事業で増収増益。売上総利益率は引き続き向上させ、46.4%に引き上げる。
- ・既存事業で売上拡大しながら、成長投資を継続し、ビジネスモデルの変革を加速する。
- ・今後も株主還元重視の方針を継続。昨年度から2円増配し、年間配当予想を86円とする。

目次

1. 2020年度 実績	P. 3
---------------------	------

2. 長期ビジョンVG2020振り返りと、 次期長期ビジョンの方向性	P. 9
---	------

3. 2021年度 計画	P. 24
---------------------	-------

- 参考資料 -	P. 37
-----------------	-------



2020年度 実績



通期実績

厳しい事業環境でも増益を達成。売上総利益率は過去最高を更新。

	2020年度 見通し	2020年度 実績	見通し比・差	2019年度 実績	(億円) 前年度比・差
売上高	6,450	6,555	+1.6%	6,780	△3.3%
売上総利益 (売上総利益率)	2,930 (45.4%)	2,984 (45.5%)	+1.8% (+0.1P)	3,037 (44.8%)	△1.8% (+0.7P)
営業利益 (営業利益率)	560 (8.7%)	625 (9.5%)	+11.6% (+0.8P)	548 (8.1%)	+14.1% (+1.5P)
当期純利益	400	433	+8.3%	392 [*]	+10.6%
米ドル 平均レート (円)	105.9	105.8	△0.1	109.1	△3.3
ユーロ 平均レート (円)	122.4	123.2	+0.8	121.2	+2.0
人民元 平均レート (円)	15.3	15.5	+0.2	15.7	△0.2

*2019年度の当期純利益は非継続事業当期純利益を除く。なお、非継続事業当期純利益を含むと749億円。

セグメント別 売上高

主力の制御機器事業は前回見通しを上回って着地。
ヘルスケア事業は大幅な増収を達成。

(億円)

	2020年度 見通し	2020年度 実績	見通し比	2019年度 実績	前年度比
制御機器事業 (IAB)	3,400	3,464	+1.9%	3,528	△1.8%
電子部品事業 (EMC)	840	860	+2.4%	884	△2.6%
社会システム事業 (SSB)	930	957	+2.9%	1,160	△17.5%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,220	1,231	+0.9%	1,120	+9.9%
本社他 (消去調整含む)	60	43	△28.3%	89	△51.4%
合計	6,450	6,555	+1.6%	6,780	△3.3%

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

セグメント別 営業利益

全てのセグメントで前回見通しを上回った。

制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業は増益を達成。

(億円、%：営業利益率)

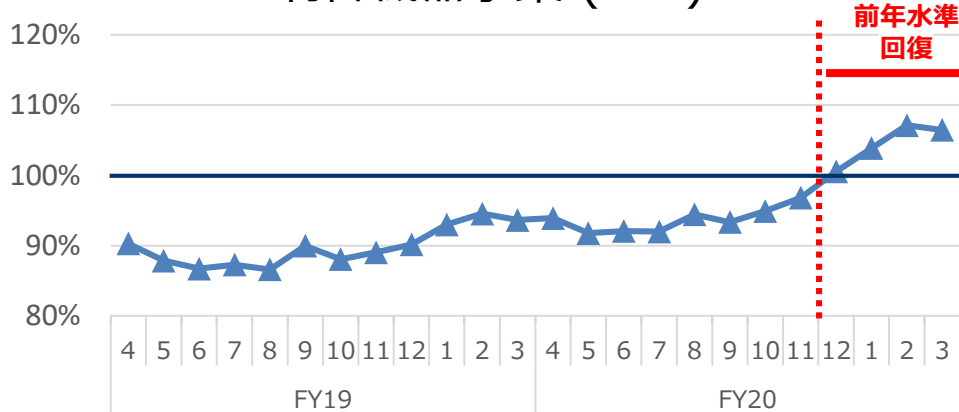
	2020年度 見通し	2020年度 実績	見通し差	2019年度 実績	前年度差
制御機器事業 (IAB)	550 (16.2%)	588 (17.0%)	+38 (+0.8P)	536 (15.2%)	+52 (+1.8P)
電子部品事業 (EMC)	25 (3.0%)	30 (3.4%)	+5 (+0.5P)	9 (1.0%)	+20 (+2.4P)
社会システム事業 (SSB)	50 (5.4%)	57 (6.0%)	+7 (+0.6P)	109 (9.4%)	△52 (△3.4P)
ヘルスケア事業 (HCB)	200 (16.4%)	206 (16.7%)	+6 (+0.3P)	135 (12.1%)	+71 (+4.7P)
本社他 (消去調整含む)	△ 265	△ 255	+10	△ 241	△ 14
合計	560 (8.7%)	625 (9.5%)	+65 (+0.8P)	548 (8.1%)	+77 (+1.5P)

* 本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

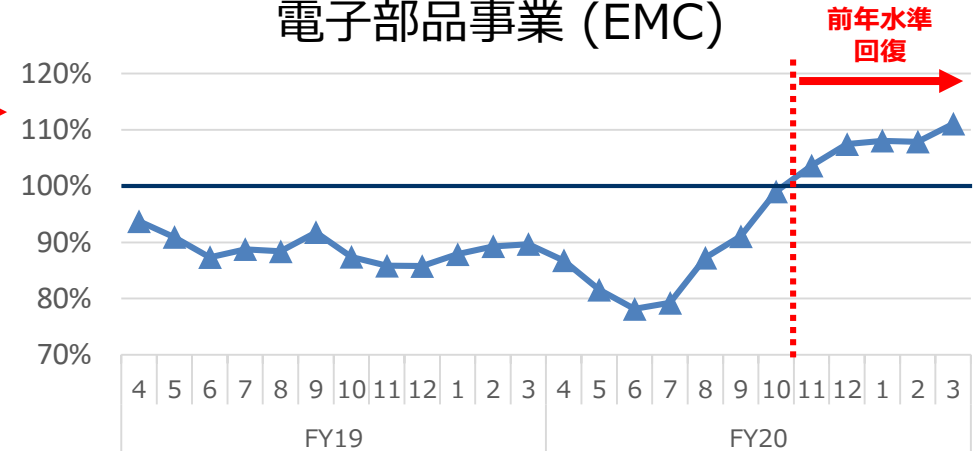
セグメント別 売上高 前年同期比伸び率推移 (3カ月移動平均)

2Q以降の市場回復に対応し、3Qから4Qへと回復のスピードを加速。

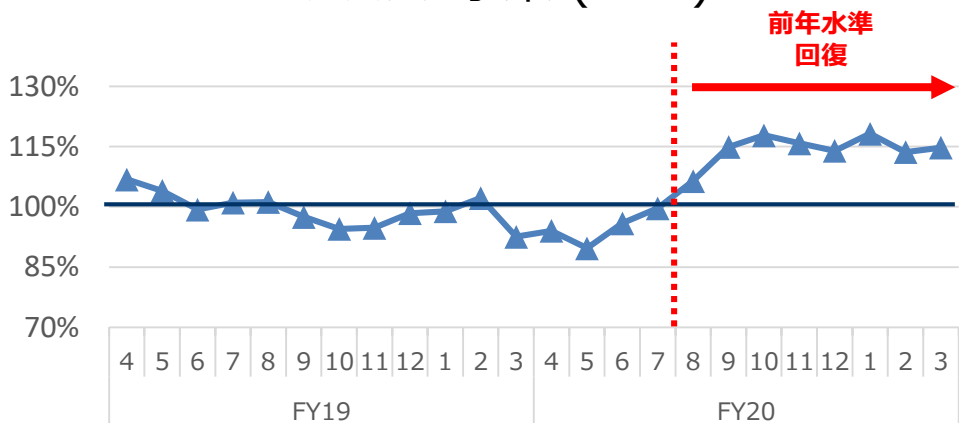
制御機器事業 (IAB)



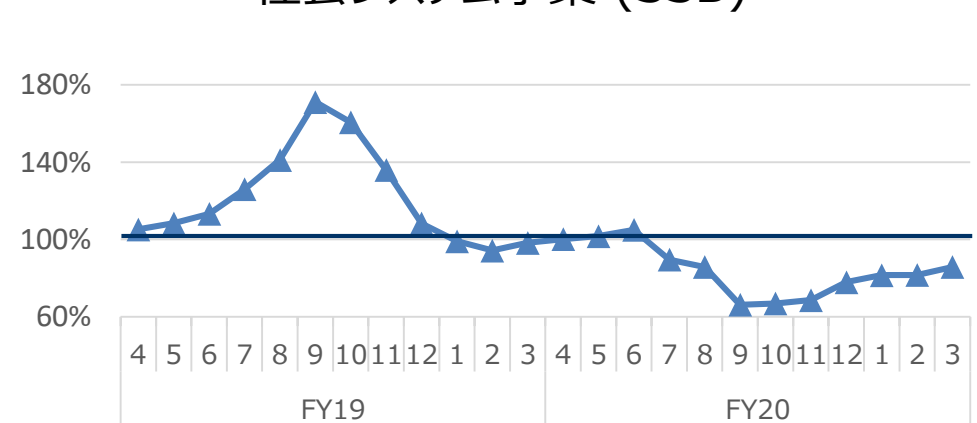
電子部品事業 (EMC)



ヘルスケア事業 (HCB)



社会システム事業 (SSB)

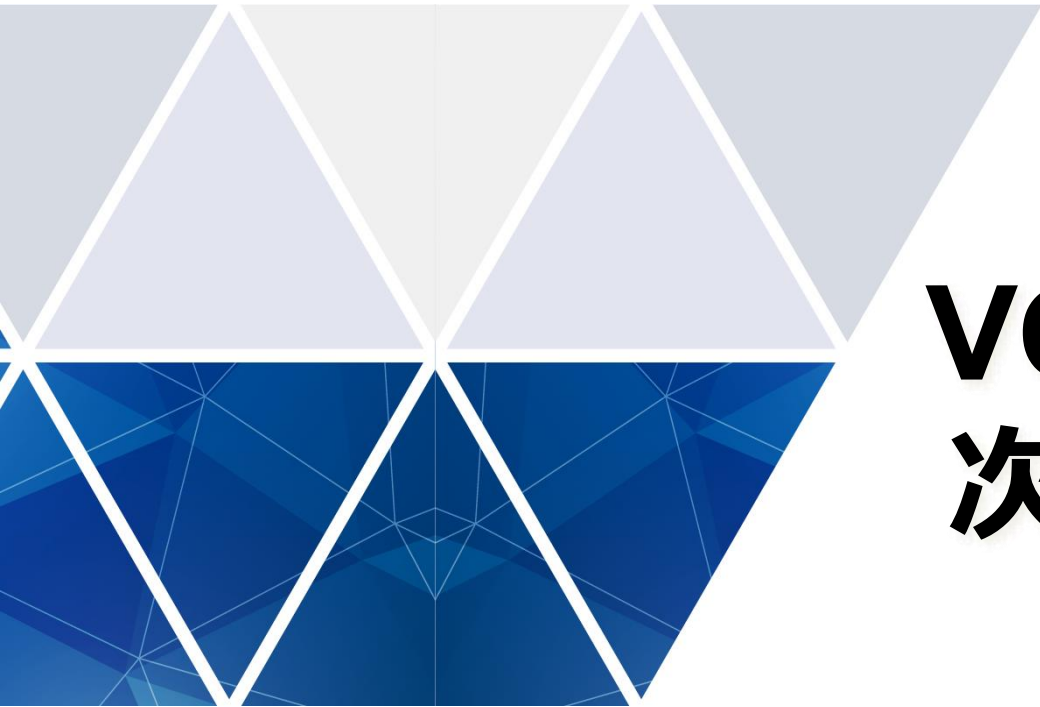


制御機器事業（IAB）4Q期間エリア別 売上高成長率

4Q期間(1-3月)においても、中華圏は大幅成長。
グローバルに需要回復が拡大し、他エリアでも回復基調が鮮明に。

2020年度 4Q期間(1-3月) 制御機器事業 エリア別 売上高成長率 (前年同期比、現地通貨ベース)

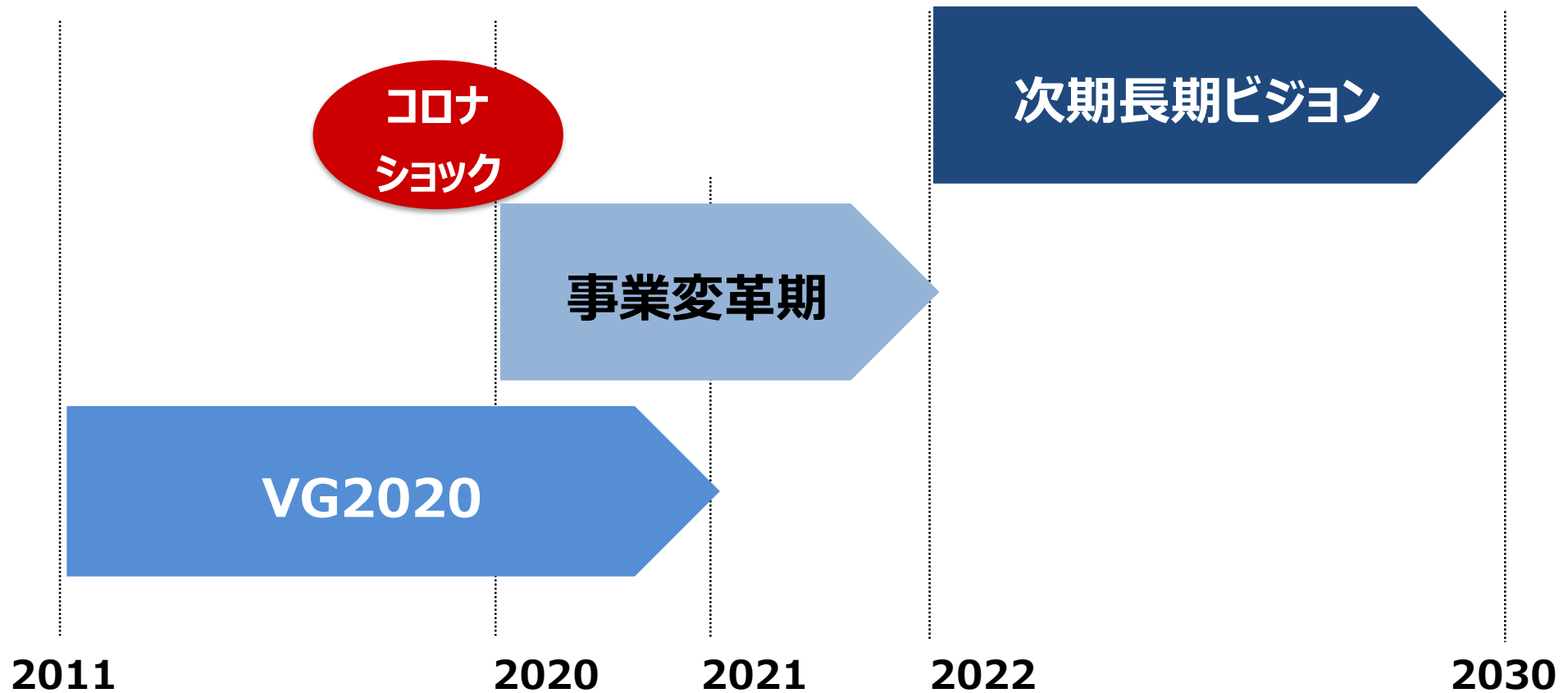
日本	米州	欧州	中華圏	東南アジア他	
				韓国以外	韓国のみ
△2%	△10%	+2%	+46%	+5%	+2%
3Q累計 (△12%)	(△11%)	(△10%)	(+24%)	(△10%)	(+11%)



長期ビジョン VG2020振り返りと 次期長期ビジョンの 方向性

次期長期ビジョンのスタート

次期長期ビジョンは2022年度からスタート。
2020年度と2021年度は、アフターコロナを見据えた事業変革期と位置づける。



10年間の取り組み

成長力、収益力、変化対応力の強化に取り組み、FAとヘルスケアに最注力してきた。

3つの力の強化

成長力

収益力

変化対応力

注力する事業領域

FA

ヘルスケア

成長力の強化

VG期間に積極的な投資を実行し、今後の成長を確かなものにする資産を構築してきた。

主な成長投資

① ソリューション提供力の強化

- オートメーションセンタ37拠点
- SE人財20%増(2016年度比)

② 新しいビジネスモデルの構築

- 共創型現場データ活用サービス i-BELT
- 遠隔診療サービス
- 駅務サービスの遠隔化・省人化

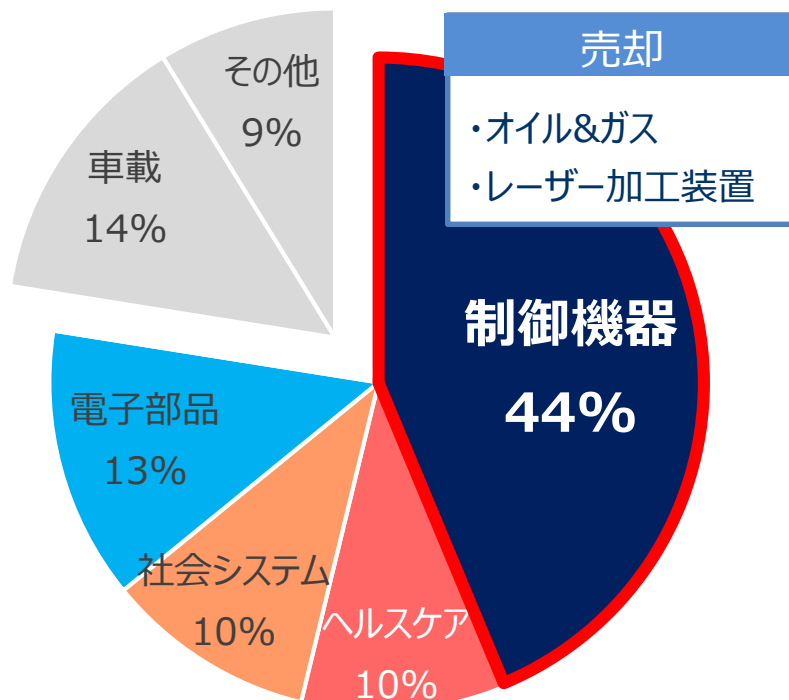
③ 新製品や新技術の獲得

- 制御機器事業：ロボットやモーションコントローラなどの獲得
- ヘルスケア事業：革新的デバイスの開発・ネブライザ事業の強化
- CVCを活用したベンチャー投資

セグメント別売上構成比率の推移

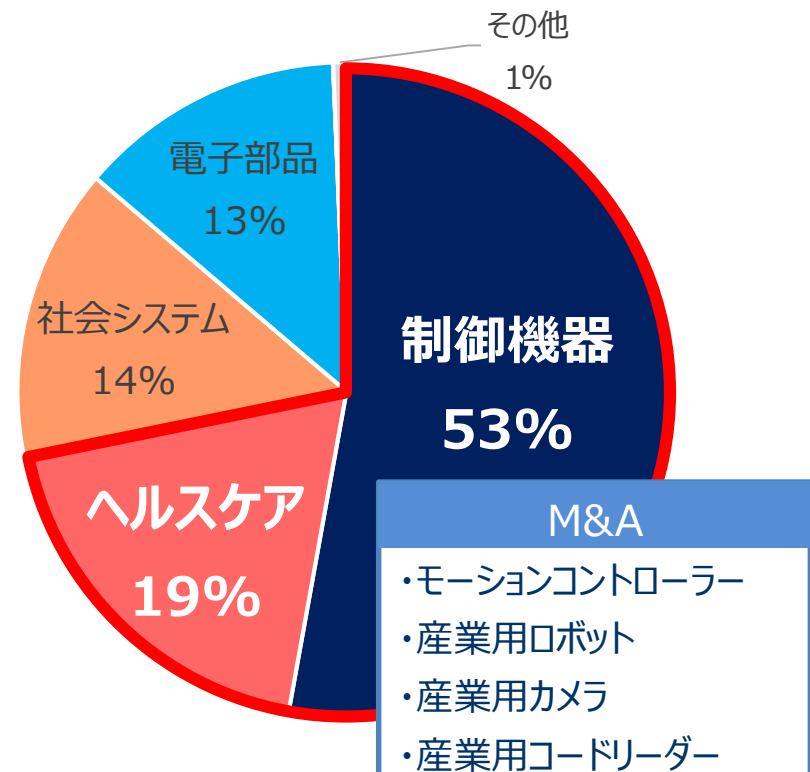
利益とシェアが高い事業に絞り込み、高収益なポートフォリオに作り変えてきた。

2011年度



営業利益率10%以上の事業比率
44% (制御機器事業)

2020年度



営業利益率10%以上の事業比率
72% (制御機器事業 + ヘルスケア事業)

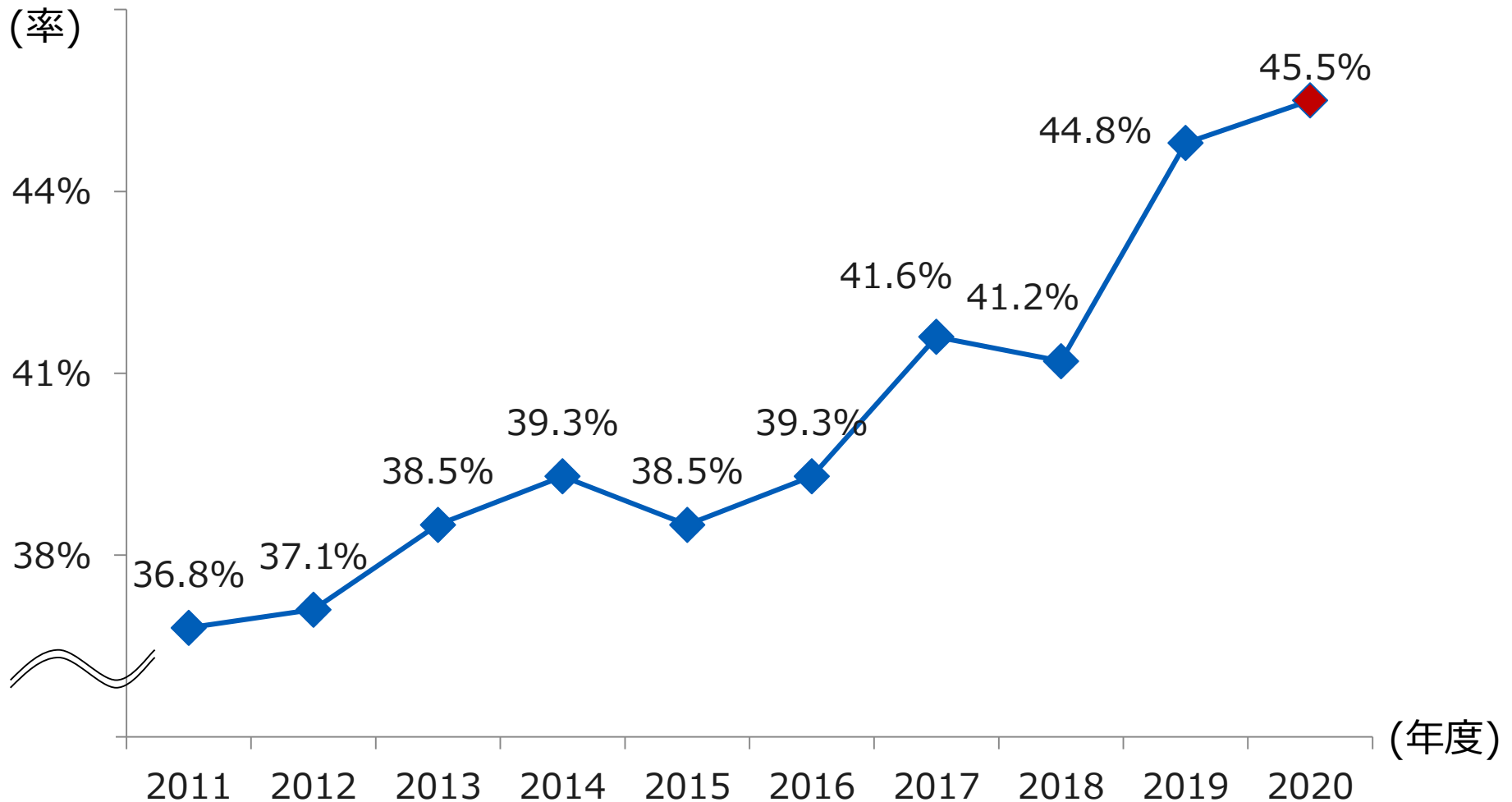
セグメント別営業利益率の推移

制御機器事業とヘルスケア事業の営業利益率を着実に向上させてきた。

	2011年度		2020年度
制御機器事業 (IAB)	13%	➔	17%
ヘルスケア事業 (HCB)	5%	➔	17%
社会システム事業 (SSB)	0.2%	➔	6%
電子部品事業 (EMC)	6%	➔	3%

売上総利益率の推移

事業ポートフォリオマネジメントをはじめとする取り組みによって、
売上総利益率が大きく向上し、筋肉質で高収益な事業体へと進化させた。



生産拠点の分散と集約によるサプライチェーンの強化

生産拠点やサプライチェーンの分散と集約を進め、
変化に強いレジリエントな体質を構築してきた。

		2011年度	2020年度
分散	制御機器事業 (IAB)	<p>4 拠点</p> <p>日本:綾部・草津 中国:上海 欧州:オランダ</p>	<p>8 拠点</p> <p>日本:綾部・草津 中国:上海 東南アジア:インドネシア 米州:カリフォルニア (2拠点) シアトル 欧州:オランダ</p>
	ヘルスケア事業 (HCB)	<p>3 拠点</p> <p>日本:松阪 中国:大連 東南アジア:ベトナム</p>	<p>5 拠点</p> <p>日本:松阪 中国:大連 東南アジア:ベトナム 米州:ブラジル 欧州:イタリア</p>
集約	電子部品事業 (EMC)	<p>11 拠点</p> <p>日本:山鹿・倉吉・一宮 山陽・飯田・草津 中国:上海・深セン 東南アジア:マレーシア・インドネシア 米州:イリノイ</p>	<p>7 拠点</p> <p>日本:山鹿・倉吉・一宮 中国:上海・深セン 東南アジア:マレーシア・インドネシア</p>

サステナビリティ取り組みと社外からの評価

サステナビリティ課題に積極的に取り組み、グローバルでトップクラスの評価を得た。
多くのESGインデックスに採用され、株価のボラティリティ低減に貢献。

サステナビリティ取り組みの主な特徴

中期計画にサステナビリティ重要課題を組み入れ

取締役会による監視・監督機能の発揮

中長期業績連動報酬に、第三者評価を採用

積極的に情報を開示し、社外との対話を強化

社外からの主な評価

DJSI—World

グローバル 323社 (日本 39社)

S&Pサステナビリティアワード ゴールドクラス

グローバル 70社 (日本 6社)

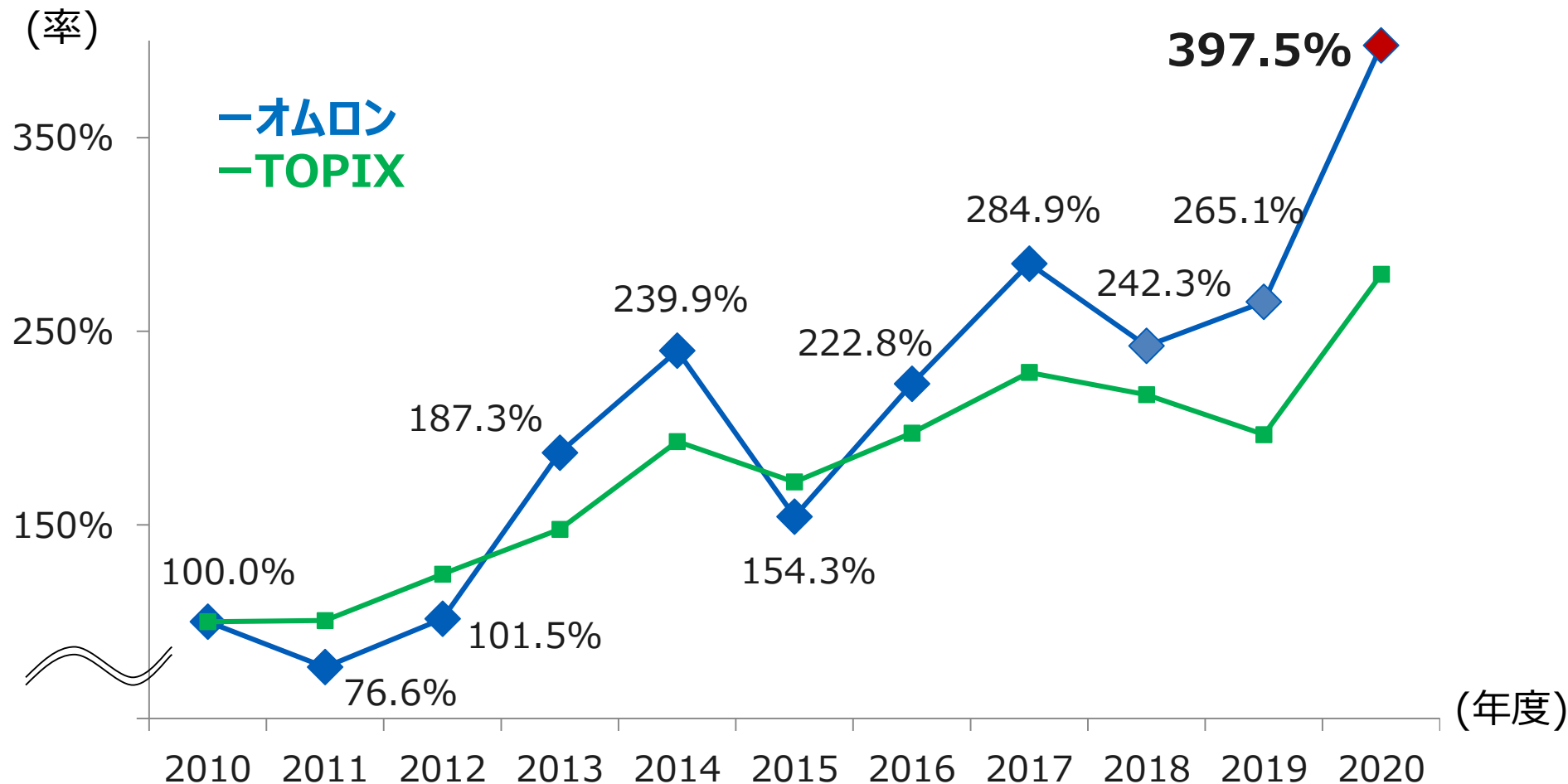
“Electronic Equipment, Instruments & Components”セクターにおいて上位1%に選定

GPIF

4つのインデックスに選定

TSR（株主総利回り）の推移

財務価値・非財務価値を創出することで、企業価値を大きく向上させてきた。

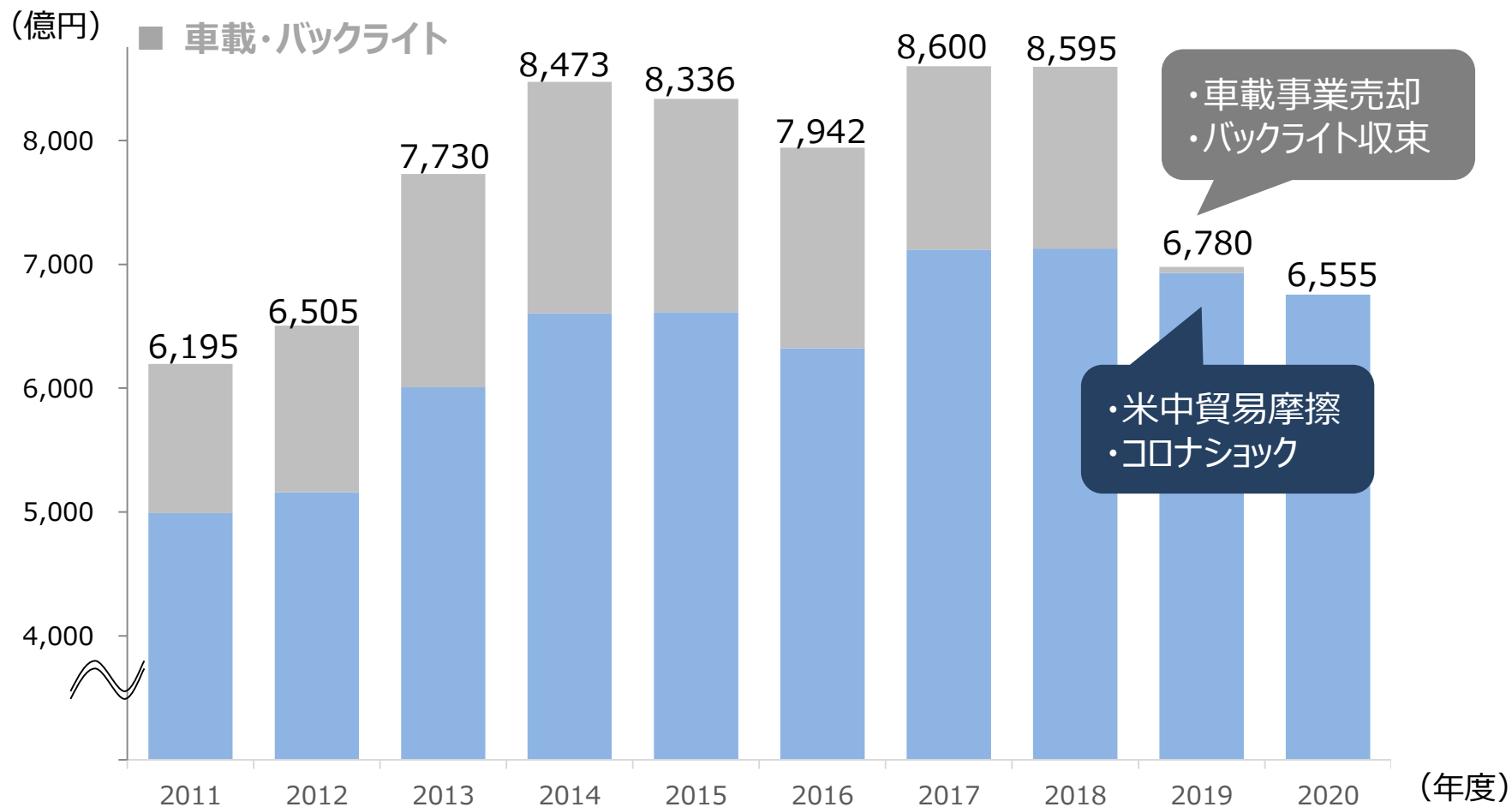


*2010年度末の終値で投資した場合の各年度末時点の値

今後の課題

成長に課題あり。

売上高推移



次期長期ビジョンの狙い

オムロンの存在意義

事業を通じて社会価値を創出し、
社会の発展に貢献し続けること

企業価値の最大化

社会価値と経済価値の創造

オムロンが取り組む社会的課題

CO₂排出量の抑制、人と機械の協働・融和、健康寿命の延伸に取り組む。

社会の変化因子

気候変動



高齢化



個人の経済格差の拡大



オムロンが取り組む社会的課題

CO₂排出量の抑制



人と機械の協働・融和



健康寿命の延伸



次期長期ビジョンで捉える成長機会とビジネスモデル進化

成長機会として「製造現場の高度化」「1次・3次産業の自動化」「予防医療支援」「エネルギーソリューション」を捉え、付加価値の継続的拡大に向けてビジネスモデル進化にチャレンジする。

オムロンが捉える成長機会

製造現場の
高度化



1次・3次産業の
自動化



予防医療支援



エネルギー
ソリューション



ビジネスモデル進化

モノ + サービス

×

パートナーとの協創

自走的成長に向けた重点戦略

価値創造に向けて、「オートメーションの進化」「デジタルトランスフォーメーション」
「人財マネジメントの変革」に取り組む。

オートメーションの進化

人と機械の協働・融和を実現する
“センシング & コントロール + Think”
の技術進化

デジタルトランスフォーメーション

デジタル技術を用いた
ビジネスモデルの構築と
企業運営の進化

人財マネジメントの変革

多様な人財が集い、一人ひとりの能力を最大限引き出すマネジメントの推進



2021年度計画

事業セグメント別 事業環境認識

制御機器事業を中心に、グローバル経済の回復基調が継続。

制御機器事業
(I A B)

自動車： EV/ADAS関連投資を中心に緩やかに回復。

デジタル： 中国・韓国における半導体や二次電池を中心に、引き続き好調継続。

食品・日用品： 脱プラスチック新素材などの環境関連投資により、ゆるやかに回復。

社会インフラ： 中国は太陽光発電を中心に好調継続。全体として回復基調。

電子部品事業
(E M C)

民生： 中国を中心に、全体的に緩やかな回復基調が継続。

車載： 米州、中国市場を中心に回復基調継続。

社会システム事業
(S S B)

鉄道： 投資抑制の動きが継続しており、需要低調を見込む。

交通： 堅調な更新需要の継続を見込む。

エネルギー： コロナ影響からの緩やかな回復を見込む。

ヘルスケア事業
(H C B)

血圧計： オンライン販売を中心にグローバルで好調継続を見込む。

その他： 体温計は反動減を見込むが、ネブライザや低周波治療器は回復基調継続。

2021年度計画

増収増益を計画。売上総利益率は46.4%、営業利益率は10%に引き上げる。

(億円)

	2020年度 実績	2021年度 計画	前年度比
売上高	6,555	7,000	+6.8%
売上総利益 (売上総利益率)	2,984 (45.5%)	3,250 (46.4%)	+8.9% (+0.9P)
営業利益 (営業利益率)	625 (9.5%)	700 (10.0%)	+12.0% (+0.5P)
当期純利益	433	480	+10.8%
米ドル 平均レート (円)	105.8	108.0	+2.2
ユーロ 平均レート (円)	123.2	128.0	+4.8
人民元 平均レート (円)	15.5	16.5	+1.0

セグメント別 売上高

制御機器事業はデジタル・EV関連が好調を維持、全エリアで増収を実現。
ヘルスケア事業は、血圧計が引き続き売上成長を牽引。

(億円)

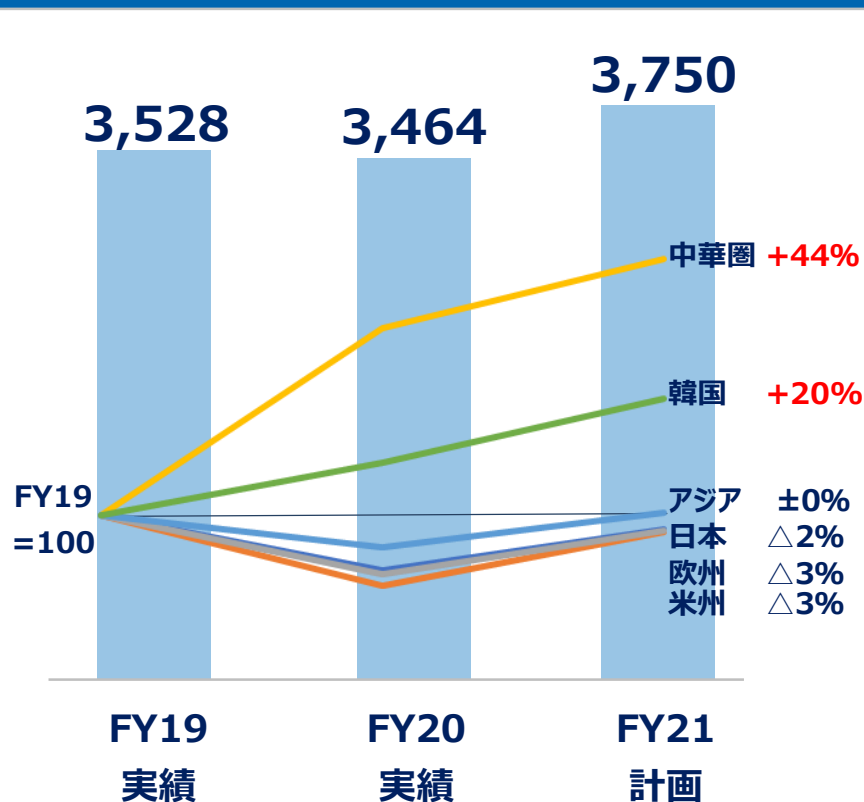
	2020年度 実績	2021年度 計画	前年度比
制御機器事業 (I A B)	3,464	3,750	+8.2%
電子部品事業 (E M C)	860	940	+9.3%
社会システム事業 (S S B)	957	960	+0.4%
ヘルスケア事業 (H C B)	1,231	1,330	+8.1%
本社他 (消去調整含む)	43	20	△53.5%
合計	6,555	7,000	+6.8%

制御機器事業（IAB）とヘルスケア事業（HCB）の売上トレンド

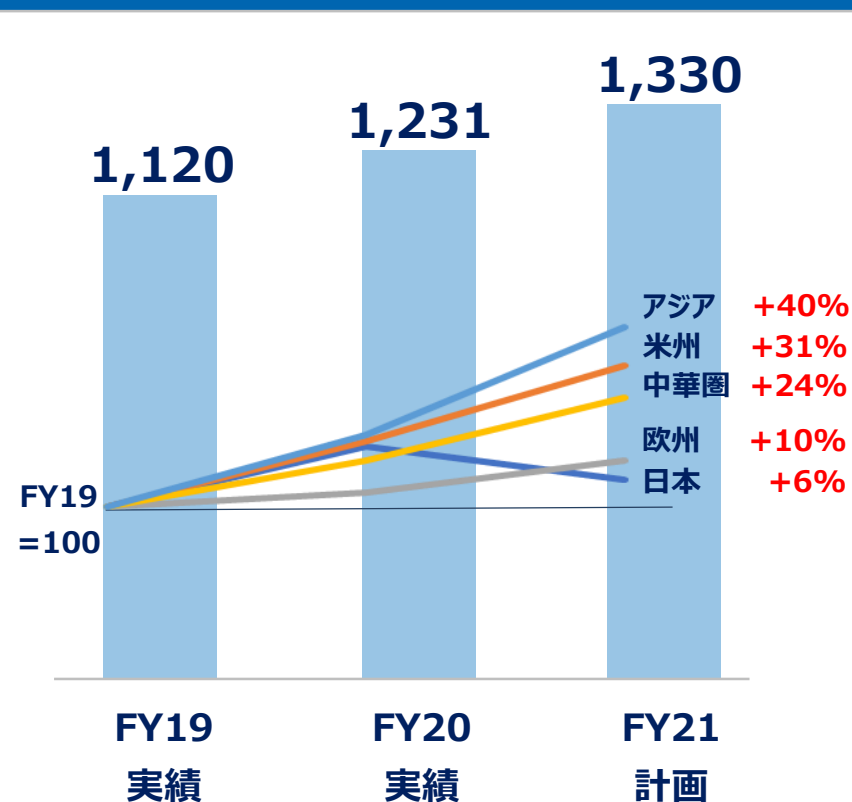
制御機器事業は中華圏と韓国が引き続き売上成長を牽引。他のエリアでも回復基調が継続。ヘルスケア事業は、全てのエリアで売上成長を実現。

単位：棒グラフ・・・億円(円ベース)、
折れ線グラフ・・・%(現地通貨ベース)

制御機器事業 売上高推移



ヘルスケア事業 売上高推移



セグメント別 営業利益

全てのセグメントで増益を見込む。

(億円、%：営業利益率)

	2020年度 実績	2021年度 計画	前年度差
制御機器事業 (I A B)	588 (17.0%)	630 (16.8%)	+42 (△0.2P)
電子部品事業 (E M C)	30 (3.4%)	45 (4.8%)	+15 (+1.3P)
社会システム事業 (S S B)	57 (6.0%)	70 (7.3%)	+13 (+1.3P)
ヘルスケア事業 (H C B)	206 (16.7%)	225 (16.9%)	+19 (+0.2P)
本社他 (消去調整含む)	△ 255	△ 270	△ 15
合計	625 (9.5%)	700 (10.0%)	+75 (+0.5P)

制御機器事業（IAB）の成長領域

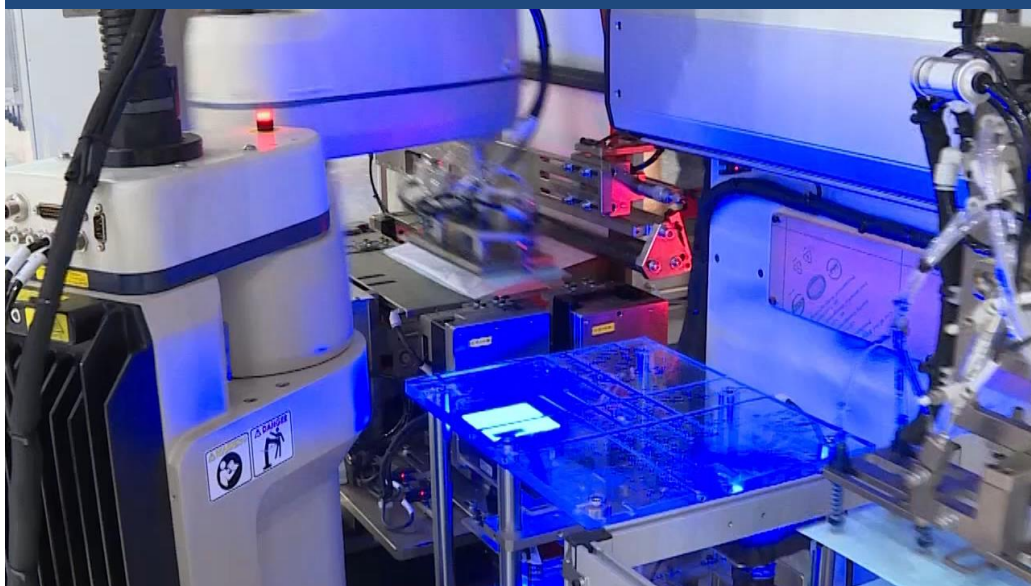
注力業界での成長領域で事業機会を捉え、成長を実現する。

業界	主な成長領域	事業機会
自動車	EV	グリーンリカバリー政策によるEV投資拡大
デジタル	半導体	世界的な半導体製造能力増強とさらなる超微細化
食品・日用品	脱プラスチック	リサイクル素材での新生産工法確立

制御機器事業（IAB） EVにおけるi-Automation!による課題解決

**EVの中核部品である車載電池の生産課題を、i-Automation! で解決。
タクトタイム向上と高品質を両立し、生産性1.5倍を実現。**

車載電池 組立工程



ロボットが供給した電極材をラミネートフィルムで包む工程
（中国のオートメーションセンタのデモ機）

EV向け車載電池の生産課題

- ✓ 低価格を実現する高速生産
- ✓ 高品質を実現する生産技術

i-Automation!によるソリューション

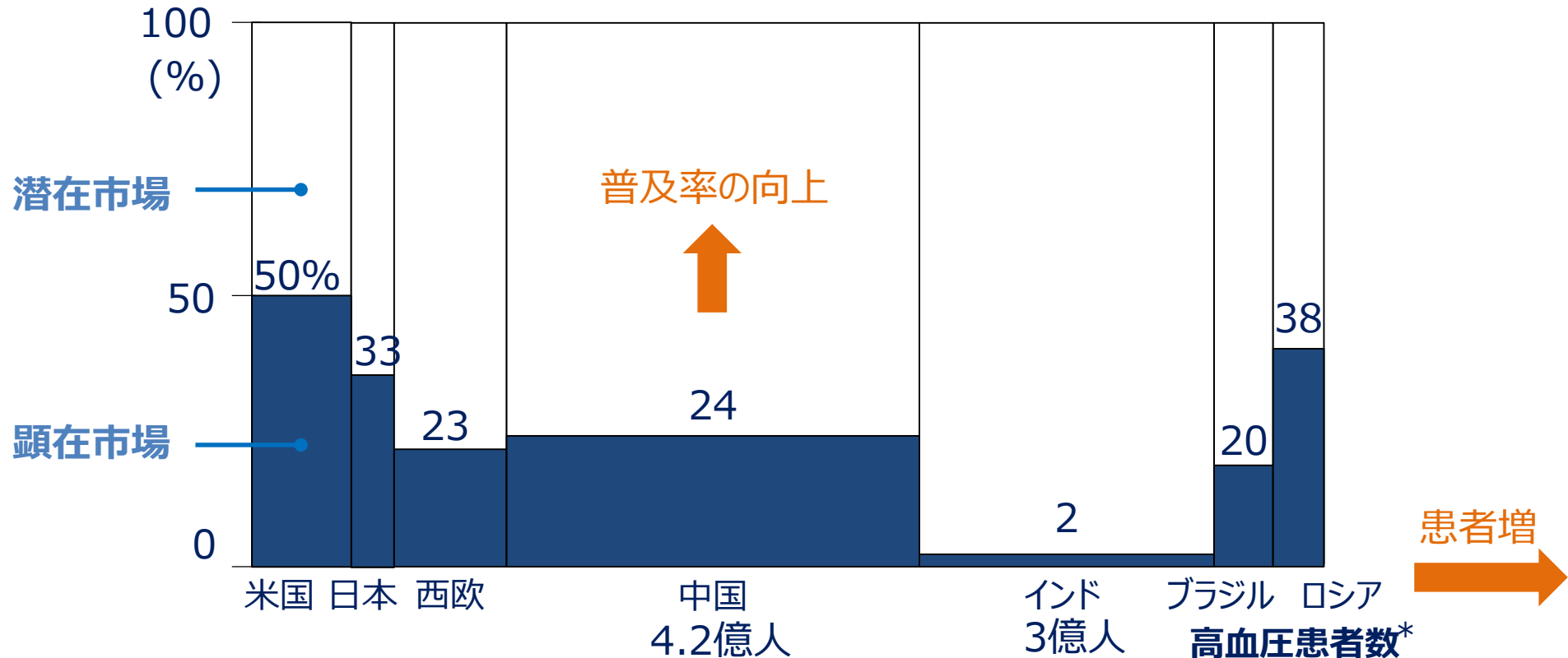
ロボット統合コントローラによる
組立工程 省人化アプリケーション

ヘルスケア事業（HCB） 血圧計市場

グローバルで血圧計事業を伸ばすことで、ヘルスケア事業の成長を実現する。

血圧計普及率**

各エリアの血圧計市場



* 高血圧患者数：WHO発表の各国の成人高血圧率と各国の成人人口から算出

**血圧計普及率：推定高血圧患者数と買替サイクルを5年としたときの他社を含む血圧計の総販売台数の推定値から算出

ヘルスケア事業（HCB）遠隔診療サービスのグローバル展開

各国の医療制度や仕組みに合わせたビジネスモデルをグローバルで展開。

イギリス

高血圧治療支援サービス
「ハイパーテンションプラス」を
2021年4月にスタート。

オランダ

日本

インド

シンガ ポール

アメリカ

遠隔モニタリングサービス
「バイタルサイト」を展開中。
今年度は現在の利用者数1,500人を
33,000人以上に拡大する。

■ リリース済み：イギリス・アメリカ・シンガポール
■ ビジネスモデル構築中：オランダ・日本・インド

年間配当

今後も株主還元を重視する方針に変更なし。
それを踏まえて、今年度の年間配当予想を、2円増配の86円とする。

2020年度
(予定)

2021年度
(予想)

年間配当

84円

86円

※2020年度の年間配当は定時株主総会で決議予定、2021年度の間・期末配当は未定。

最後に

【2020年度の成果】

- ・ コロナ禍において、変化対応力とソリューション提供力がさらに高まる

【2021年度の経営スタンス】

- ・ 変化対応力とソリューション提案力を最大発揮し、成長機会をつかむ
- ・ 自走的成長に向けた投資、アクションの実行を加速する

OMRON



參考資料

6つの経営指標

	2011年度実績	2020年度実績
売上高	6,195億円	6,555億円
売上総利益率	36.8%	45.5%
営業利益	401億円	625億円
ROIC	4.8%	7.8%
ROE	5.2%	7.6%
EPS	74.5円	214.7円

強固な事業ポートフォリオの構築

買収

14年 南米ネブライザ(HCB)

15年 モーションコントローラー(IAB)

15年 産業用ロボット(IAB)

17年 産業用カメラ(IAB)

17年 産業用コードリーダー(IAB)

18年 欧州ネブライザ(HCB)

譲渡/収束

12年 キャパシタ(EMC)

12年 組込ソフト/ハード受託開発(本社直轄)

13年 光通信(EMC)

16年 オイル&ガス(IAB)

16年 院内医療機器(HCB)

18年 レーザー加工装置(IAB)

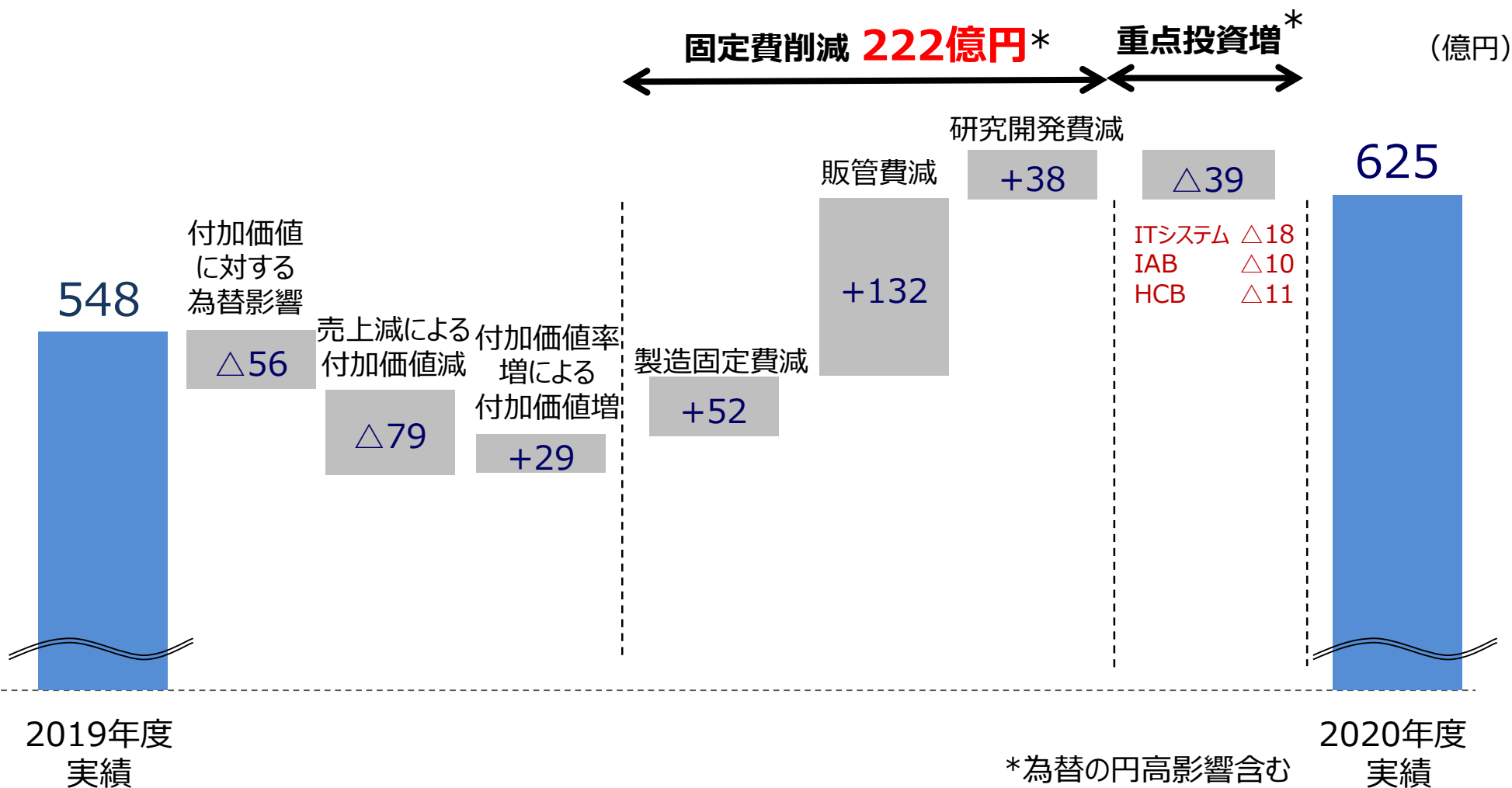
19年 EDMS*(本社直轄)

*産業用電子機器の開発・製造受託サービス事業

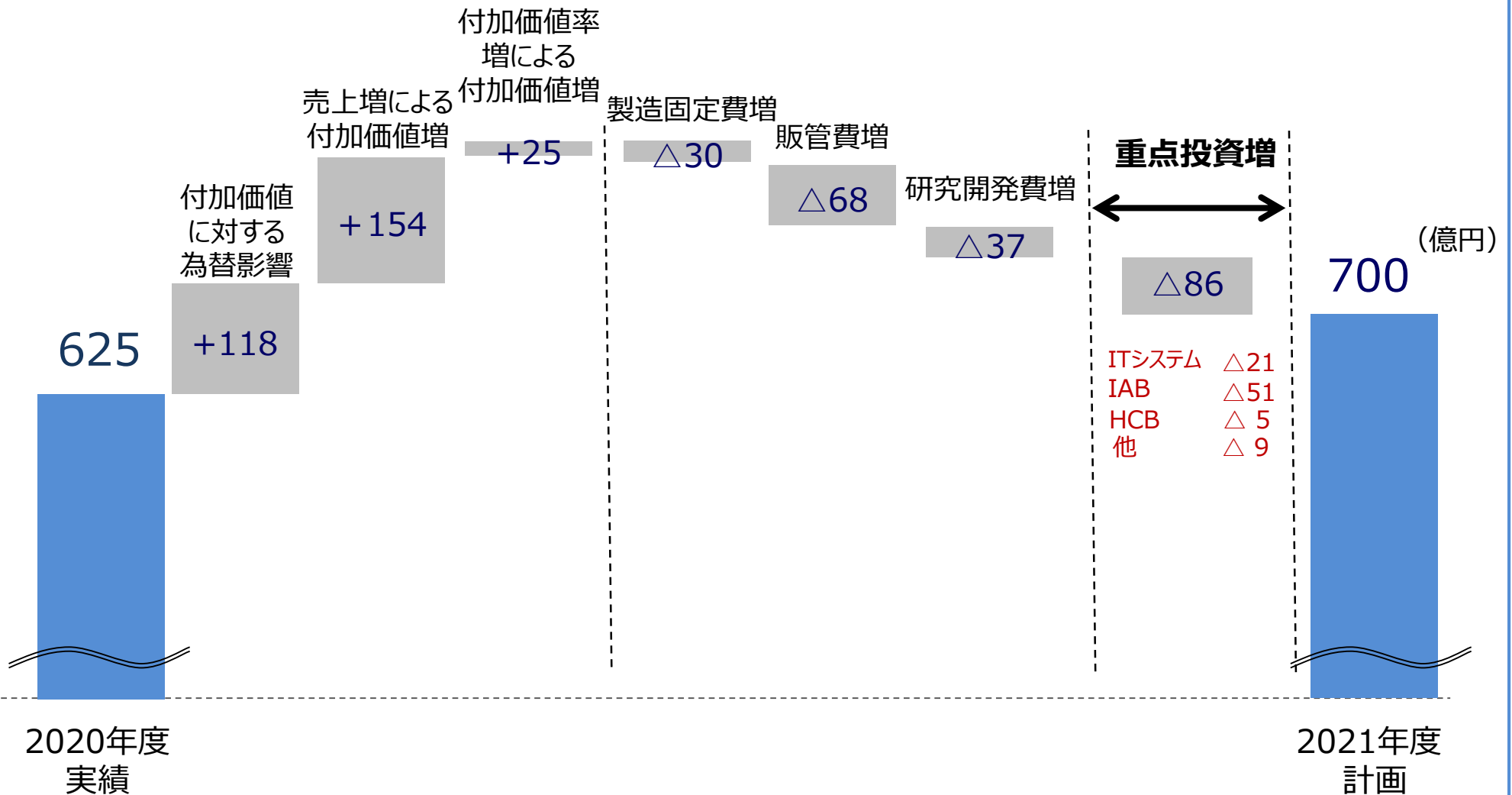
19年 車載事業(AEC)

19年 バックライト(本社直轄)

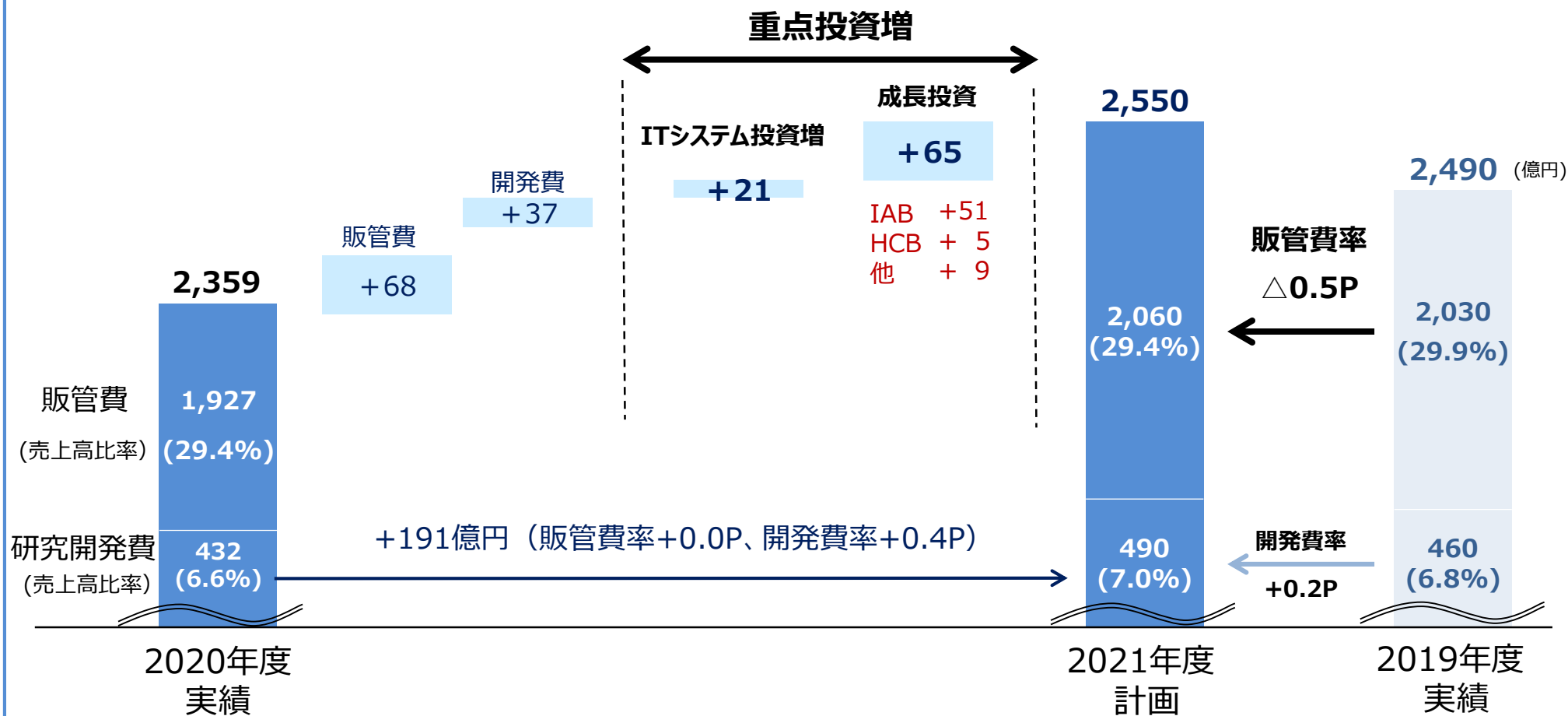
2020年度実績 営業利益増減（前年度差）



2021年度計画 営業利益増減（前年度差）



2021年度計画 固定費増減（前年度差）



連結貸借対照表

(億円)

	2020年3月末	2021年3月末	前年度末差
流動資産	4,471	5,144	+673
(現金及び現金同等物)	(1,855)	(2,508)	(+652)
(たな卸資産)	(1,043)	(1,033)	(△10)
有形固定資産	1,145	1,130	△15
投資その他の資産	1,965	1,929	△35
資産の部合計	7,581	8,204	+623
流動負債	1,513	1,614	+101
固定負債	742	497	△246
負債の部合計	2,255	2,110	△145
株主資本	5,304	6,069	+764
非支配持分	22	25	+3
純資産の部合計	5,326	6,094	+768
負債及び純資産合計	7,581	8,204	+623
株主資本比率	70.0%	74.0%	+4.0P

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2019年度 実績	2020年度 実績	前年度差
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	898	938	+40
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	286	△148	△434
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	1,184	790	△394
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△294	△204	+91
期末の現金残高	1,855	2,508	+652
設備投資	331	240	△92
減価償却費	257	228	△29

2021年度 為替前提

	2021年度 為替前提	1円変動による影響額（通期） *人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	108円	約17億円	約2億円
ユーロ	128円	約9億円	約4億円
人民元	16.5円	約8億円	約2億円

※ 新興国通貨等が、主要通貨に想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

株主還元方針

利益配分の優先順位は、①将来の成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得

将来の成長に向けた投資

FA、ヘルスケアを中心に、成長投資(M&A)、研究開発費、設備投資に振り向ける

配当

年間配当は配当性向30%程度、DOE3%程度を目安として決定する

自己株式取得

長期にわたり留保された余剰資金は、機動的に自己株式の取得を実施

主要ESGインデックスへの組み入れ (2021年4月現在)

<オムロンが選定されているESGインデックス>

- ✓ DJSI – World **4年連続選定**
- ✓ FTSE4Good Index Series **5年連続選定**
- ✓ MSCI ESG Leaders Indexes **6年連続選定**
- ✓ MSCI SRI Indexes **4年連続選定**
- ✓ STOXX Global ESG Leaders Indices **5年連続選定**
- ✓ FTSE Blossom Japan Index **4年連続選定**
- ✓ MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 **4年連続選定**
- ✓ MSCI 日本株 女性活躍指数 **4年連続選定**
- ✓ S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数 **3年連続選定**

*オムロンでは、CDP気候変動・水に関する調査を含むESG評価機関による調査など、多くの外部からの調査に協力し、情報を開示しています。
2020年度評価：気候変動「A-」、水セキュリティ「A-」

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**

Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good



THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

STOXX

Member 2020/2021
**ESG Leaders
Indices**

**2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX**

THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

**2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)**

THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



FTSE Blossom
Japan



DRIVING SUSTAINABLE ECONOMIES

社外からの評価 (2021年4月現在)

<ESG関連表彰・銘柄選定>

S&Pグローバル社選定

- ✓ S&P サステナビリティアワード ゴールドクラス **初選定**

Sustainability Award
Gold Class 2021

S&P Global

一般社団法人 日本取締役協会 主催

- ✓ コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー2018 経済産業大臣賞 **2018年度受賞**



環境省 主催

- ✓ 平成30年度 地球温暖化防止活動大臣表彰 「対策活動実践・普及部門」を受賞 **2018年度受賞**



日本経済新聞社 主催

- ✓ 日経SDGs経営大賞 「SDGs戦略・経済価値賞」を受賞 **2019年12月受賞**

経済産業省・東京証券取引所 選定

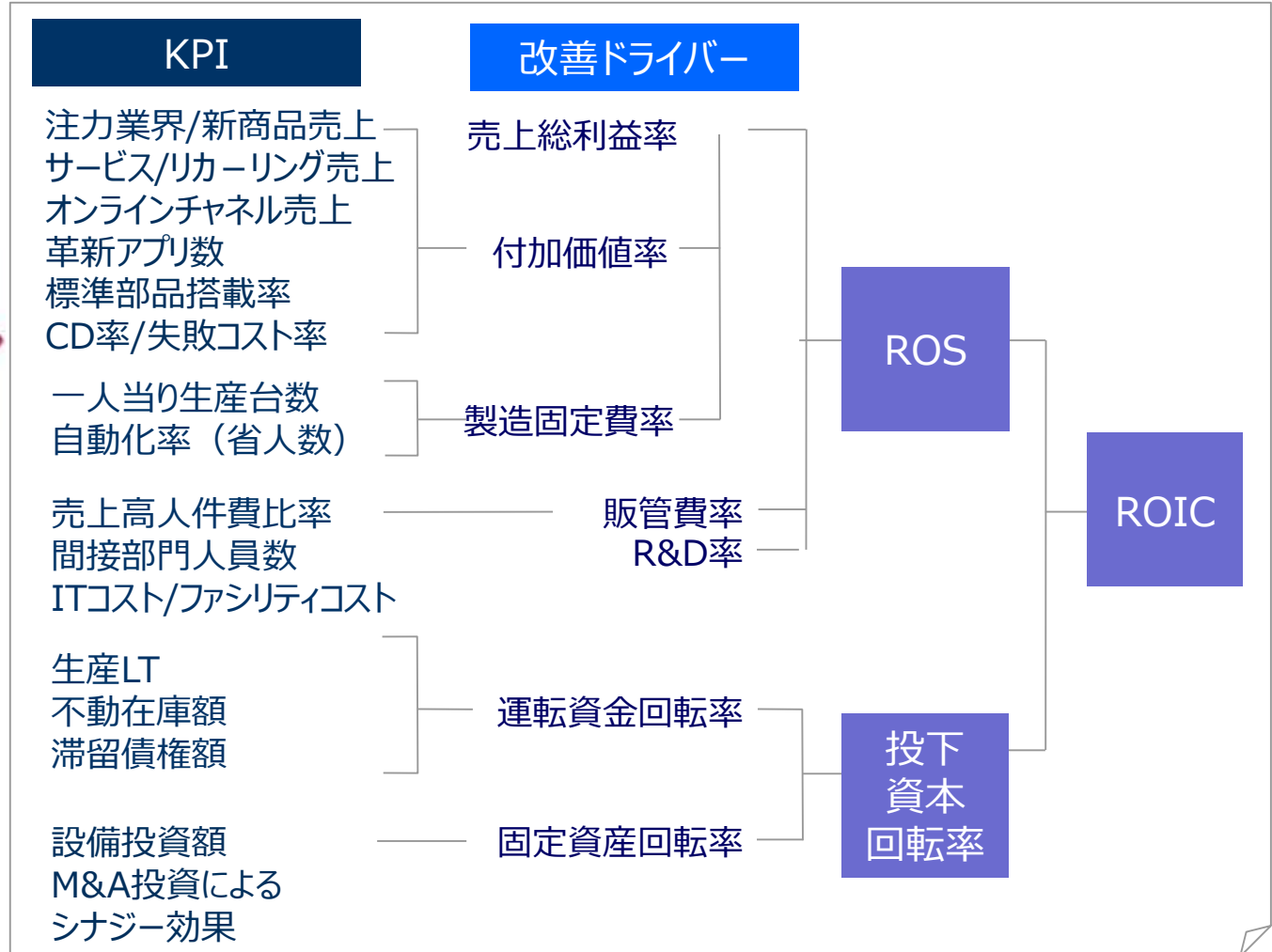
- ✓ 企業価値向上表彰 大賞 **2014年度受賞**
- ✓ なでしこ銘柄 **2017年度より4年連続選定**
- ✓ 健康経営銘柄 **2018年度より3年連続選定**
- ✓ 健康経営優良法人～ホワイト500～ **2016年度より5年連続選定**



日本経済新聞社 選定

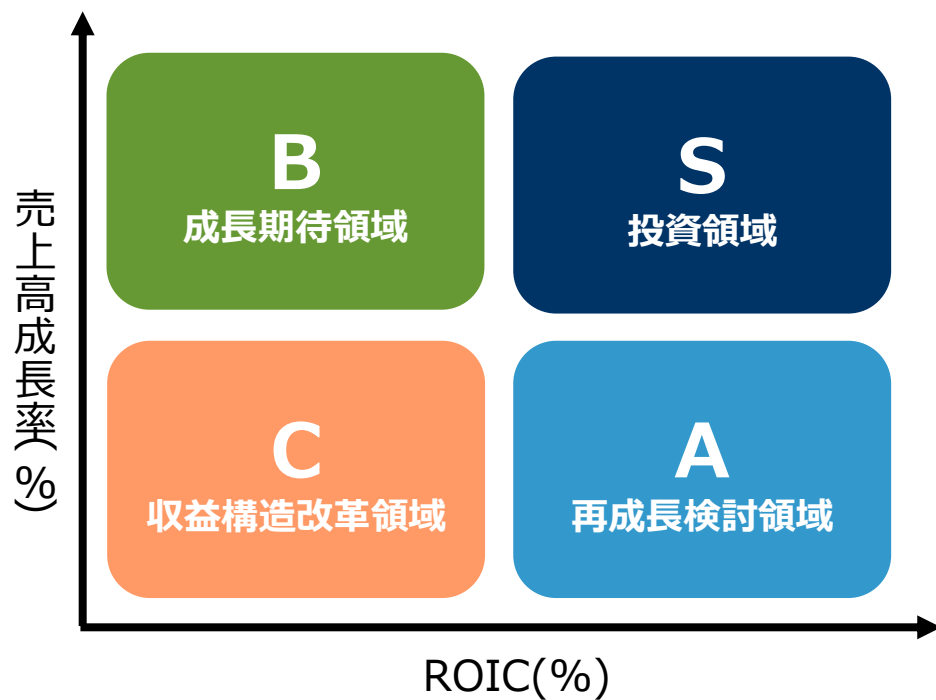
- ✓ 日経225 **2019年3月 初選定**

ROIC逆ツリー展開 (2.0)

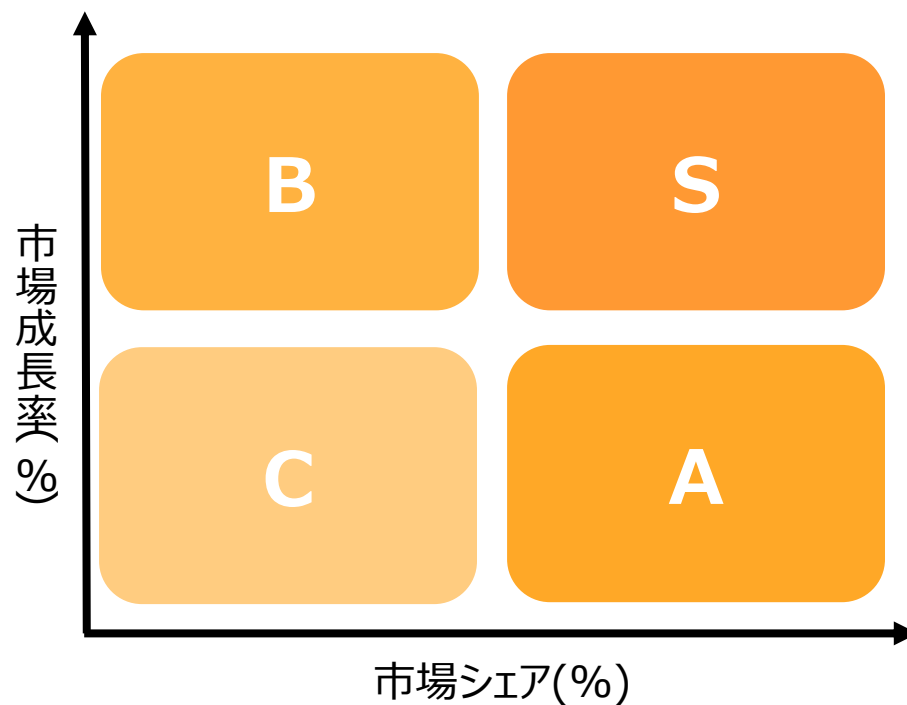


事業ポートフォリオマネジメント

経済価値評価



市場価値評価



ROIC計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月 末
資産の部	
流動資産	
…	
…	
有形固定資産	
…	
投資その他の資産	
…	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
…	
…	
…	
純資産の部	
株主資本	
…	
…	
…	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

当社株主に帰属する
当期純利益

ROIC =

投下資本

投下資本 = 純資産 + 有利子負債

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

2021～2024年度の想定資本コスト : 5.5%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
3. 当資料は「2021年3月期 決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

< I R に関するお問い合わせ >

オムロン株式会社

グローバルインベスター & ブランドコミュニケーション本部 IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron-ir@omron.com

Webサイト : www.omron.com/jp/ja/